

平成 28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	体験活動を通して児童館の子どもたちの交流を深める事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人チルドレンズ・ミュージアム 安曇野市三郷明盛 2349-1
事業区分	(2) 保健・医療・福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,137,783 円 (うち支援金 : 910,000 円)

事業内容

安曇野市9か所の児童館で、「夏休み」「春休み」にお楽しみ会が開かれているが、この時期に「自分でやる」ことを主眼にした事業を展開した。今までは、「ただ見るだけ」「話を聞くだけ」の事業が多かったが、多くの子どもたちから、感動の声が届いている。

内容は、

- ① 生活に密着した科学の基本を体得するプログラム
- ② 「作る過程を大切にしたい」工作教室を行った。



【会場写真】

【目標・ねらい】

- ① 児童館の友達同士の交流の場
- ② 「見るだけ」より「体得」の場
- ③ 生活に目を向ける大切さ
- ④ 新しい科学を発見

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 今までの児童館では、例を見ない内容と展開は、多くの子どもたちに圧倒的に支持された。
- ② 各児童館では、アンケートを採ったが、
「とても、面白かった」 95%
「面白かった」 4%
「ふつう」 1%
- ③ 感想文も同時に書いてもらったが、感動の生の声が届けられている。

※自己評価【 A 】

【理由】

・子どもたちのアンケートがすべてを語っています。開催主体の自己満足としてのA評価でなく、参加した子どもたちからいただいた評価だと思います。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・今後は、安曇野市の児童館だけではなく、松本平の児童館での開催を考えています。「子どもの居場所作り」が施策として、大きく取り上げられています。スキーム(骨子、ハード)だけでは、漏れ出してしまう事例が多い中、しっかりとした「ソフト事業」でこの問題をクリアしたいと考えます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある